

# 偉人伝 石田梅岩と石門心学(二)

大和商業研究所 代表 清水 正博

西晋一郎先生と森信三先生

「みいのちに触りせざりせばおぞの身の 命いかにか生きむとやせし」

「御姿をふたたび拝す時なけむし

か思はれば声たてて泣かゆ」

昭和十八年十二月、森信三先生が西晋一郎先生の訃報に接し、満州国新京で詠まれた短歌から二首を引用した。

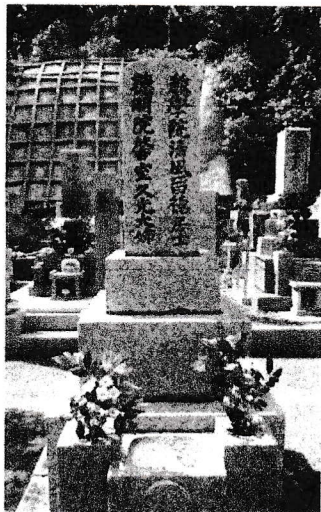
「森先生は生涯にただ一人筆頭の師といえは西先生を躊躇なくあげられたでしょう」(『森信三小伝』)。

森先生は昭和十三年、斯道会夏期研修会のあと、西先生より少し話があるとのことで西先生の常宿の道頓堀北詰の河内屋へ立ち寄った。「実は君にお願いがある。満州の建国大学へ行ってもらいたいのだが——」。森先生は行かない事情を伝えたところ、西先生は無言で、二十分間程、双方とも沈黙

が続いた。森先生は遂に承諾せられ、翌年から八年間、満州の地に於いて先生の教化、及び敗戦後、死と隣り合わせの壮絶な日々を送った。西先生は森先生にとって天命の伝達者であった。

西先生のお墓は鳥取市にあり森先生は墓前にて「天庭の拝」(眉の間・額の中央を土に付けて拝む)をなされると寺田一清先生からお聞きした。寺田先生は森先生の墓参に際し同様に拝せられる。私もそれに倣い寺田先生の墓前では天庭の拝にてお参りしている。

西先生の墓碑は親交の厚かった法隆寺の百三世管長、佐伯定胤氏の書であ



西先生の墓所。  
私も度々参じている。

る。戒名は教学院清風普徳居士。(なお鳥取では「実践人の家」大先輩の中西敏先生に各所をご案内いただいた。この場を借りて御礼申し上げます。)

佐伯管長の仏典講義には西先生は出席され森先生もお供で法隆寺を訪問されたことがある。

## 西晋一郎先生ご略歴

西先生(一八七三〜一九四三)は、鳥取藩医の家系で父は士族であった。東京帝国大学哲学科を卒業後、広島高等師範学校教授などを歴任。倫理哲学者。昭和十八年、宮中に於ける昭和天皇への講書始で、『論語』「顔淵篇子貢問政」を進講され、『昭和天皇をポツダム宣言受諾に導いた哲学者』(ナカニシヤ出版)としても著名だ。

西先生の著作に『尊徳・梅岩』がある。岩波書店の『大教育家文庫』(全二十四巻)に含まれている。孔子、ソクラテス、ルソー、ペスタロッチーなど世界的な教育家が網羅されており、日本人